

令和7年度岡山県立高梁高等学校学校評価書

1 学校自己評価について

- ・別紙「令和7年度 岡山県立高梁高等学校具体的な学校経営目標・計画」参照

2 学校関係者評価について

(1) 学校運営協議会委員名

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 五百蔵 実 (高梁高校PTA会長) | 伊藤 泰樹 (高梁市市議会議長) |
| 中瀬 克己 (吉備国際大学学長) | 菅田 吉昭 (高梁高校同窓会代表) |
| 平井 聡一郎 (文科省ICT活用教育アドバイザー) | |
| 福原 洋子 (高梁市教育委員会事務局参与) | |
| 横山 弘毅 (高梁市学校連携コーディネーター) | |
| 鳥越 信行 (高梁高校校長) | |

(2) 学校関係者評価について

学校運営協議会における学校関係者評価として、委員から指摘いただいた主な点は、次の通りである。

- ① 各種メディアを活用した学校の教育活動の戦略的広報による生徒募集の充実。
- ② 生徒の資質・能力と主体性を育む、対話的・探究的な学びを実現する授業改善。
- ③ DXハイスクール事業を契機とした校務DX化の推進、および生徒主体の学びを実現するための生成AI等の授業での効果的な活用。
- ④ 校外における各種活動への生徒の主体的な参加を促進するための、情報提供および支援体制の整備。
- ⑤ 地域行政・地元企業等との連携によるキャリア形成支援と、地域への愛着の醸成。

3 令和8年度の重点目標(案)について

学校評価をふまえた今後の方向性は、次の通りである。

①資質能力を育成するR-PDCAサイクルの定着化	⑤校外発表・コンテスト等への積極的挑戦の推進
②3年間を見通した進路指導の深化	⑥小中学校との連携強化の推進
③外部機関等と連携した探究活動の充実	⑦地域・保護者による学校への理解と協力の促進
④自己調整力と責任ある行動を育てる生徒指導の充実	

令和7年度 具体的な学校経営目標・計画

1 組織的な学力向上施策

岡山県立高梁高等学校 No.1

本年度の重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
				達成状況	評価	達成状況	評価
① 資質・能力を育成するR-PDCAサイクルの促進	教務課	各教科担当者が年間2回(各期末)、教科が設定する「生徒に身につけさせる資質・能力」に対する評価ルーブリックを用いて生徒自身による振り返りを実施し、資質・能力の育成状況を分析する。分析結果に基づき授業改善計画(P)を策定し、教科会議で共有・調整を行う。各教員は授業実践(D)後に相互授業参観で点検(C)を行い、改善策(A)を次期の授業に反映させる。	各教科が設定する「生徒に身につけさせる資質・能力」について、評価ルーブリックを用いた生徒自身の振り返りの結果、前期と後期を比較して平均数値の上昇で、下記の基準を達成すること。 A: 前期+40% B: 前期+30%	各教科が設定する「生徒に身につけさせる資質・能力」に対する評価ルーブリックに基づき、生徒自身による振り返りを実施した結果、年度当初(4月)と8月の比較は、全体平均+28.5%(1年次:家政科+22%・普通科+23%、2年次:家政科+41%・普通科+23%、3年次:家政科+31%・普通科+31%)だった。集計結果は全体で共有し、後期の個々の授業改善に活かしてもらう。	B	各教科が設定する「生徒に身につけさせる資質・能力」に対する評価ルーブリックに基づき、生徒自身による振り返りを実施した結果、年度当初(4月)と12月の比較は、全体平均+39.2%(1年次:家政科+33%・普通科+28%、2年次:家政科+40%・普通科+37%、3年次:家政科+55%・普通科+42%)だった。集計結果は全体で共有し、次年度以降の教科指導・個々の授業計画に活かしてもらう。	B
		各教科が設定している「生徒に身につけさせる資質・能力」を育成する授業手法について「改善する」を目的として年2回の公開授業を行う。第1回目は、各教科でテーマを設定し、教科内で授業を公開し、その後の検討会でフィードバックを行う。第2回目は、その改善内容を実践する公開授業を行う。外部アドバイザーを依頼し、助言をもらうことも計画する。	全教科でテーマに基づいた公開授業と検討会を行うこと。加えて、公開授業機関中に、教科内の授業見学だけでなく他教科の見学にも行き教科指導に活かすこと。 A: 半数以上の教科で公開授業と検討会を年2回行うことができた。 かつ、個人の授業見学回数平均が2.0回以上 B: 全ての教科で公開授業と検討会を年1回行うことができた。 かつ、個人の授業見学回数平均が1.5回以上 【参考】昨年度の公開授業・検討会 各教科1回 授業見学回数 前期1.0回 後期1.0回	5月に第1回授業公開期間内に、全教科でテーマに基づいた公開授業と検討会を行い、教科内での研修を行うことができた。個人の授業見学については、総数86回、平均回数2.0回と積極的に見学に行く姿が見られた。見学後の意見交換も見られ、授業改善に向けての雰囲気を作れている。10月の第2回授業公開を予定している。	A B	各教科で行った公開授業と検討会は、半数の教科が年2回、その他が1回行い、授業改善の機会とすることができた。個人の授業見学回数は、第2回が総数42回、平均回数1.09回に留まったものの、年間平均では1.5回となり、評価基準Bの「1.5回以上」はクリアできた。他教科見学を通じた視点の共有や活発な意見交換も定着し、組織的な研修体制が構築できている。またAを活用した授業への関心も高まっているが、後期の見学意欲の維持に課題は残る。	B B
② 学力伸長を目指した指導の充実	進路課	学習実態調査の効果的な活用(モニタリング)と、教科担当からの成績層別の具体的な指示を徹底し、スタンダードに基づく家庭学習とくに土日祝日の学習時間の伸長を図ることで、学力伸長を目指す。	平均家庭学習時間の伸長が、下記基準を達成すること。 A: 年度当初比+20%、または昨年度比+30% B: 年度当初比+10%、または昨年度比+20% 【参考】昨年度からの1日あたり家庭学習時間(分) 新1年次(普)今年度当初:124 (家)今年度当初:61 新2年次(普)昨年度平均:140 (普)今年度当初:133 (家)昨年度平均:85 (家)今年度当初:94 新3年次(普)昨年度平均:149 (普)今年度当初:171 (家)昨年度平均:103 (家)今年度当初:94	各年次の1日あたりの家庭学習時間(分)の推移は、以下の通り。 1年次:(普)124⇒134⇒119 (家)61⇒67⇒76 2年次:(普)133⇒131⇒116 (家)94⇒104⇒116 3年次:(普)171⇒187⇒222 (家)94⇒106 ※3年次生の数値には、入試関連の教科外学習が加わる。 クラス担任を中心に学習実態のモニタリングを実施しているが、各時期におけるスタンダードの徹底が十分ではない。1・2年次の学習時間は停滞しているため、国数英3教科を中心に家庭学習の明確な指示ができるよう、進路課から年次にはたつきかけ、チューターとしての担任の役割機能を高めたい。土日と平日の学習時間があまり変わっていないところに大きな課題があるため、レベル別課題等へ移行も進めていきたい。	B	各年次の1日あたりの家庭学習時間(分)の推移は、以下の通り。 1年次:(普)124⇒134⇒119 (家)61⇒67⇒76 ⇒126⇒160 ⇒91⇒71 2年次:(普)133⇒131⇒116 (家)94⇒104⇒116 ⇒136⇒181 ⇒119⇒83 3年次:(普)171⇒187⇒222 (家)94⇒106 3年次生はもちろんのこと、1・2年次生も年度の後半とくに秋冬から学習時間が伸びてきた。課題であった土日の学習時間も少しずつ増加しており、家庭学習の定着が進みつつある。次年度に向けては、模擬試験や実力考査等の分析をいっそう進め、生徒の学力評価の精度を高めていく。さらに、その評価に基づいて、レベルに応じた個別最適な課題の実施をいっそう進め、志望形成と学力伸長を目指していきたい。	B

2 体系的・系統的なキャリア探究プログラムの充実

本年度の重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
				達成状況	評価	達成状況	評価
③ ICTを活用した文理横断的・探究的な学びの強化	進路課	統計スキルの取得とその調査・分析への活用を支援するとともに、生成AIを効果的に活用することで探究活動の内容をより充実させられるよう支援する。そのために必要なスキルを獲得するための教員研修を充実させる。	生成AIに関する教員研修と研修内容の理解度調査を実施する。 A: 研修回数3回以上または、内容理解度において満足(4点以上/5点)と回答した割合が80%以上 B: 研修回数2回以上または、内容理解度において満足(4点以上/5点)と回答した割合が70%以上	岡山大学と連携し、生成AIに関する研修を1回実施した。その研修では教員向けアンケートを実施していなかったため、内容理解度については把握できていない。今後も外部講師を招聘しての研修会を企画立案したり、外部主催の研修会の参加を促したりすることによって、生成AIの利活用に関する知識を蓄積できるよう計画していきたい。	B	生成AIに関する研修会を3回(6月:岡山大、12月:LX DESIGN、1月:本校教員による伝達講習)実施した。12月研修会の教員向けアンケートにおいて、肯定的な回答割合は92.3%であった。教員によって生成AIの使用のレベルやニーズが異なるため、次年度以降も外部からの情報を仕入れながら、具体的な活用事例の紹介などの校内研修を実施していきたい。	A
		教員の進路指導に対する視座や見識の向上を目的とした小規模研修を実施することによって、生徒の社会とのつながりを意識した志望形成および学習意欲の向上につなげる。	自らの進路希望に関して、「なぜ、その進路(分野)を選んだのか」ということを具体的に言語化(レベル1⇒レベル2あるいはレベル3 またはレベル2⇒レベル3)できるようになった生徒が A: 年度当初比+30% B: 年度当初比+20% 【参考】レベル1(具体的ではない) レベル2(少し具体的になってきた) レベル3(具体的に明確になってきた)	志望形成のレベルの数値の年度当初からの変容は、以下の通り。 1年次平均(当初)1.05 ⇒(中間期)1.14 2年次平均(当初)1.26 ⇒(中間期)1.38 3年次平均(当初)1.72 ⇒(中間期)2.27 3年次生は進路決定が間近にせまっていることもあって高い変容となっているが、1・2年次生はわずかな増加にとどまっている。レベル2になる生徒が増えるよう、教員の視座や見識が高まる小規模研修を行うとともに、生徒のカウンセリングと情報発信の質的向上に努めていきたい。	B B	志望形成のレベルの数値の年度当初からの変容は、以下の通り。 1年次平均(当初)1.05 ⇒(中間期)1.14 ⇒(年度末)1.41 2年次平均(当初)1.26 ⇒(中間期)1.38 ⇒(年度末)1.67 3年次平均(当初)1.72 ⇒(中間期)2.27 ⇒(年度末)2.54 進路に関するLHRや探究学習の時間を通して、生徒が自身の関心や進路希望を言語化する機会を充実させた。また、カウンセリング等を通じて生徒との対話を進めたことで、生徒の進路意識の高揚や志望形成の深化といった一定の成果が見られた。次年度は、生徒一人ひとりの社会とのつながりを意識した志望形成を継続的に支援できるよう、教員のチューター的役割をいっそう高める機会を創出していきたい。	A A

3 グローバル教育の充実

本年度の重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
				達成状況	評価	達成状況	評価
⑤ 国際交流プログラムの進化	教務課	異文化理解の促進と英語コミュニケーション能力の向上を目標として、つぎのプログラムを計画する。 ・台南市私立港明高級中学との姉妹校提携の締結と第1回訪問を12月に実施し、今後の交流プログラムを構築する。 ・NIHS、港明高級中学両校とのオンライン交流の機会を増やし、より多くの生徒に交流機会を提供する。 ・NIHSとの中期留学プログラムを再開し、継続的なプログラムとなるように内容を整理する。	プログラム後の自己評価項目として、「①異文化に対する理解が深まったと感じますか?、②異文化の仲間と協力することの重要性を理解しましたか?、③異文化との交流によって、考え方や価値観が変わったと感じますか?、④英語でのコミュニケーションが以前よりも容易になったと感じますか?、⑤国際交流を通じて、英語を使う自信ができましたか?、⑥国際交流を通じて、自分自身の成長を感じましたか?」の質問を行い、 A: ①~⑥の全ての項目で80%以上の肯定的回答 B: ①~⑥の全ての項目で70%以上の肯定的回答	NIHS・台南市私立港明高級中学への今年度の訪問予定者・行程が決まり現在準備を進めている。8月17日から9月26日まで、NIHSから中期留学プログラムとして1名の生徒を受け入れた。これにより、受け入れに関するフォーマットを整理することができた。 オンラインによる交流は、現在調整中であり、今後、事前研修として相手校生徒との交流を図っていく予定である。	B B	12月23日に私立港明高級中学との姉妹校提携が無事締結され、友好的な交流を行うことができた。NIHS・港明高級中学両校ともオンライン交流の機会を設けることができ、不定期ではあるが生徒同士の交流ができている。中期留学プログラムの受け入れを再開し、フォーマットを作成することができた。 今年度、何らかの国際交流プログラムに参加した生徒を対象に実施した事後アンケートの結果では、④・⑤を除いた4項目で100%の肯定的回答であった。④60%、⑤50%の肯定的回答であったが、回答者の多くが台湾との交流参加者であり、必ずしも英語を用いた交流ではなかったため、成果としては十分と考えられる。	A A

4 主体性・個性を伸ばす指導の充実

本年度の重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
				達成状況	評価	達成状況	評価
⑥ 一歩前へ踏み出す生徒の支援	生徒課	生徒会が中心となって、学校生活における課題や改善点について「目安箱」などを活用して全校生徒の意見を吸い上げる。その意見を元に改善策を立案・実行できるよう生徒会に対して関係教職員は助言・環境整備を行うことで生徒の主体的な取り組みを支援する。	生徒会が自分たちで提案した改善点を学校に提案し改善することができた。 A：提案した改善点の60%を達成できた。 B：提案した改善点の40%を達成できた。	9月末まで生徒会としては、松籟祭への取り組みがメインとなったため、学校生活における意見を吸い上げはできていない。ただ、松籟祭の文化の部や体育の部においては、生徒からの意見を活かし、新しい提案（キッチンカーの導入など）や改善点などを採り入れることができた。後期には、学校生活全体において、全校生徒から意見を吸い上げ、より良い学校生活となるよう提案していく予定である。	B	学校生活に関して、生徒からの意見を吸い上げ生徒会を中心に6つの提案をすることができた。そのうち提案内容の5つを改善する方向で受け入れることができた。ただ、提案の中には県との協議が必要な施設に関する要望もあったので、それについては県に要望を提出することで対応するものとした。	A
	家政科	・生徒自身が考えて決定し、行動できる活動場を増やす。 ・家庭科独自の校内行事（家政科展や家政科集会）や産業界や行政の協力を得ながら行っている活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう支援する。	生徒が考えて行動でき、生徒主体の活動ができた。 A：生徒アンケート 80%以上が肯定的な回答 B：生徒アンケート 60%以上が肯定的な回答	今年度新たに生徒の発案で、夏のオープンスクールで、家政科希望者へのミニショー（保育・被服）、文化祭2日目に家政科有志による手話歌を行った。また、6月には「天満屋ゆかたデー」への参加など主体的に活動する場が増えた。	B	家庭クラブ活動や家政科集会、家政科展などの行事を通じて、主体的に生徒自身が考えて行動している姿が見られた。また、生徒アンケートでも「自分で考えて行動できた」思う 93.3%であった。今後は、地域と連携しながら家政科の学びを深めていきたい。	A
	教務課	生徒一人ひとりが自らの可能性を広げ、社会に貢献できる人材として成長することを狙いとして、将来のキャリア形成に繋がる多様な経験の場（資格取得・コンクール・国際交流・ボランティア等）を提供する。資格取得については、英語科と連携をして英検受験者を増やす。コンクール・国際交流・ボランティア等についてはポータルサイト・CLASSroomを利用して生徒への周知を徹底する。	1 英検チャレンジャーが昨年度比+10% 2 コンクール・国際交流・ボランティア等へのチャレンジャーのべ人数が昨年度比+10% A：1, 2ともに昨年度比+10%のチャレンジャーがいた。 B：1, 2のどちらかで昨年度比+10%、かつもう一方で+5%のチャレンジャーがいた。 【参考】R6年度 英検 のべ70人 国際交流イベント10人、ボランティア9人	英検チャレンジャーは現在91人(第1回37人、第2回54人)と目標を達成できている。次年度に向けた国際交流イベントの申込は年度後半になるが、昨年度の申込者の中から、「トビタテ！留学JAPAN」に2名、「AIG高校生外交官プログラム」に1名が参加している。また、新規に「高校生ボランティア留学2025夏」に2名が参加し、例年のボランティアプログラムを含めると現在12名で、昨年より10%以上増えている。	A B	英検は現在147人(第1回37人、第2回54人、第3回56人)と昨年度(56人)の2.6倍の生徒がチャレンジし、目標を大きく上回ることができた。「トビタテ！留学JAPAN」には今年度も2名がエントリーし、現在審査待ちである。国際交流活動やボランティアへの参加者も昨年度の10%増しが達成できている。その他、教科等の指導の中で検定・コンテストに参加する活動もあり、生徒に多様な経験の場を提供することができた。	A A
⑦ 新しい時代の学びに対応した学習環境の整備	制服検討委員会	・「選択できる制服・多様性」をコンセプトに令和8年度から新たにポロシャツ等を導入し、本校らしい制服について検討する。 ・オープンスクール等で新制服スタイルの着こなしについて新入生や保護者に周知する。	A：新しい制服スタイルについて検討でき、在校生や新入生や保護者に周知できたうえで令和8年度より新制服スタイルに移行することができた。 B：新しい制服のスタイルが決定し、夏秋オープンスクールで新制服の紹介を行うことができた。	ポロシャツ・リボン（カッターシャツ用）のデザインは決定し、令和8年4月からの販売が決定した。夏のオープンスクールでは、校内展示や制服についてのアンケートを取るなど周知に努めた。現在、制服の内規についても生徒課で検討中である。	A	現在、令和8年度のポロシャツ・リボン（カッターシャツ用）の購入についての準備を業者と行っている。また、在校生で購入希望があった場合についても対応準備を進めている。	A
	事務室	・グループワークに最適化し、ICTを活用した探究活動が実施できる設備を配備したスペースを整備する。 ・海外の生徒との交流や会議・講演会等、オンラインでの交流で世界とつながることができる設備を配備したスペースを整備する。 ・面談、質問対応、小論文・面接指導等、個別指導ができるスペースを整備する。 ・個別ブースがある自習スペースを整備する。	A：4項目全てを整備することができた。 B：3項目整備することができた。	・視聴覚教室に天吊プロジェクター1台と単焦点プロジェクター2台を設置し、ICTを活用した探究活動ができるスペースを整備した。 ・国際交流教室に天吊プロジェクター1台とバックパネルを設置し、オンラインでの交流ができるスペースを整備した。今後既存の机と椅子を更新し、海外の生徒との交流等ができるようにする。 ・会議室にホワイトボードパーティション5台を購入した。既存の5台と既存の机・いすを使用し個別指導ができるスペースを整備する予定。 ・進路学習室に9席の個別ブースを設置し、自習スペースを整備した。	B	視聴覚教室、国際交流教室、進路学習室は整備が完了し、それぞれの教室の目的に沿った利用がされている。会議室は必要な物品を購入した。令和8年度から面談、質問対応等ができる部屋として購入物品を設置し整備する。	B

5 学校からの情報発信の進化

本年度の重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
				達成状況	評価	達成状況	評価
⑧ 全県学区に対応する戦略的な広報活動による生徒募集	総務課	対面とオンラインを使い分け、全県学区への効果的な広報を工夫する。具体的には、高梁高等学校の魅力を具体的に伝えるために、生徒自身が「在校生の声」を、ブログで発信する場面を作る。	在校生が、学校の様子をブログで発信する。 A：年間10回以上の実施 B：年間5回以上10回未満の実施	9月末までに、8回実施した。特に、松籟祭関係のブログは、生徒等への反響が大きかった（「いいね」の回数の過年度比較）。後半も、生徒の活動は、生徒自身の声で発信できるよう、積極的に行事の把握を行い実施したい。	B	在校生のブログ発信を、12月末までに14回実施した。生徒が関連する教育活動は、生徒の声で内容を発信できるようにしていく意識を教員と生徒の両者も工夫が次年度の課題である。	A
	地域・保護者の学校理解の促進	保護者や中学生等に本校HPによる情報発信を周知する。情報発信に関しては、学校教育活動の意義や生徒の成長過程を伝えることを意識し、学校への理解を深める内容とする。さらに、HPの閲覧数を定期的に把握し、ニーズに応じたコンテンツの見直しを図る。	HPのブログの更新等を積極的に行うことで、HPのアクセス数を昨年度より増加させる。 A：昨年度比+5%（約2,000回）以上 B：昨年度比0%～+5%未満 【参考】令和6年度月間平均アクセス数41,064回	HPアクセス数は、4月から8月の月間平均アクセス数は、60,358回である。後半は、次年度の生徒募集を意識した効果的なブログの更新を行いたい。	A	HPアクセス数は、4月から12月の月間平均アクセス数は、70,100回であり、昨年度比170%である。積極的なブログ更新を行うことができた。来年度は、ショート動画で学校の雰囲気や伝えるなど広報媒体を効果的に使い、教育活動の内容を発信していく。	A